

りんご

1 予報の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予 報 の 根 拠
腐らん病	—	並	(1) 本年の巡回調査での発生園地率は、平年並であった。(±) (2) 寒候期予報では、冬期間(12～2月)の気温は、平年並か高い予報。(±)
野ネズミ	—	並	(1) 寒候期予報では、冬期間(12～2月)の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多い予報。(±)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(-)：少発要因、(- -)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【腐らん病】

- (1) 多発園では、落葉期に特別散布を実施する。また、散布にあたっては、薬液が枝幹に十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 年内から厳冬期の剪定は、剪定痕が枯れ込むことがあり、感染や発病を助長するので避ける。
- (3) 発生園では、剪定の切り口に殺菌塗布剤を必ず塗布する。
- (4) 発病や前年の病斑からの再進展は、3月頃から確認されるので、処理済みの病斑、切り口癒傷部、摘果痕や採果痕などを注意して観察し、早期発見に努める。本病は、発生樹及びその隣接する樹に次年度も発生する傾向があるので、注意して観察する。
- (5) わい性樹の胴腐らんでは、側枝基部の発病が多いので、この部分をよく観察する。
- (6) 剪除した枝や削り取った病患部は、園地内に残さないよう処分を徹底する。
- (7) 本病は薬剤だけの防除は難しく、処置の徹底により伝染源を少なくすることが重要である。できるだけ地域単位で伝染源量の低減に努める。また、放任園は伐採処分する。

【野ネズミ】

- (1) 積雪前にできるだけ園内を清耕、清掃し、野ネズミが生息しにくい環境にする。
- (2) 忌避剤の使用は、根雪前に行う。忌避剤だけでは十分な効果が得られない場合もあるので、殺そ剤による駆除と併用する。
- (3) 殺そ剤の晩秋の処理は、積雪前には行うようにする。殺そ剤の駆除の効果を上げるためには、りんご園に限らず周辺の農地も含めて地域で一斉に処理することが望ましい。
- (4) 被害に遭いやすい苗木や若木は、被覆により食害を回避する。被覆は、金網や合成樹脂のプロテクターなどにより、樹幹を根雪部より高さ約1mまで行う。
- (5) 2月以降、樹の周りの雪が早く解けると特に加害されやすくなる。この時期には数回、幹の周りの雪をよく踏み固めておく。

【ナミハダニ】

- (1) 主幹、主枝などの粗皮下や下草で越冬する。わい性樹では、粗皮下の他、主幹の固定や枝の誘引に使用しているマイカ線の下でも集団で越冬する。今年発生が多かった園地では、粗皮削りを丁寧に行うとともに、マイカ線の下も確認し、集団越冬が確認された場合は交換する。

3 防除上の注意事項

- (1) 忌避剤、殺そ剤の使用にあたっては、包装等に記載されている内容を良く確認し、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用時や保管時に子供やペット、野鳥などが誤食しないように取り扱いに十分注意すること。